

トゥギャザー Together

共に生き共に歩む

たじみ男女共同参画情報紙

2010年9月 ■ 多治見市

第19号



イラスト 希望ヶ丘1 齋藤ひと美さん

Contents

- 平成 22 年度男女共同参画講演会の報告
- 第 2 次たじみ男女共同参画プランの進捗状況の報告
- 平成 22 年版男女共同参画白書について
- information
 - ・ 若年層を対象とした交際相手からの暴力の予防啓発教材の発行



8月24日精華公民館で行われた男女共同参画講演会の様子

男性も女性も共に自分らしく生きるために
男女共同参画社会を考える

平成 22 年度男女共同参画講演会を開催しました。



小崎 恭弘さん

8月24日精華公民館において、小崎恭弘さんをお迎えし、「男女共同参画社会に向けて～男性の子育てとワークライフバランスの視点から～」と題し、講演会を開催しました。当日は、精華地区の教職員をはじめ120人が聴講しました。ここでは、小崎さんの講演内容から一部をご紹介します。

●講師プロフィール

神戸常盤大学短期大学部准教授、NPO ファザーリングジャパン理事
兵庫県西宮市の男性保育士として12年間施設・保育所に勤務。その間、育児休暇を3回取得。現在は、それらの体験等に基づき、男性の育児・男女共同参画社会等について講演活動も行う。主な著書に「男性保育士物語」ほか、現在ベネッセ『ひよこクラブ』に「失敗から学ぶパパの育児」を連載中。

日本は、30～40歳代の父親世代が、長時間労働をしています。先進国と比較すると家庭での家事・育児時間はほんのわずかで、父親が家事・育児ができない社会なんです。

男性は生き方の幅が狭い

男性は、家事だけでなく色んなスキルが低い。もっと言うと男性は、生活の質が低い、楽しみ方がわからない。コミュニケーション能力もやっぱり低い。会社以外で、自分を彩るもの、形作るもの、ネットワークがない。つまり、人生の主人公になれていない。

でも、男性ってしんどい。自殺者は3万人を超え、うち8割は男性、その中で40代が8割を占める。過労死の95%、ホームレスの95%も男性。一回落ちるとアウトになる、生きる幅が狭い社会を生きているんです。“男の癖に泣くな”、“男は笑ってはいけない”、“思ったことすぐ口にするな”、と言われて育ってきている。男性の生きる幅は小さい頃から決められてしまっているんです。

男性が育児をしない社会の悲劇

父親不在が日常化することで、家族を構成する力と機会が低下しています。家族力、教育力の低下と言われてはいるけど、その大きな部分は父親だと思っています。

男性が子育てしない社会で何が起きているか。児童虐待です。虐待するのは、実母が6割以上だけど、よく考えると育児しているのは99%が女性。その中で6割というのは、お母さんは、すごくがんばっているということだと思います。

もう一つ、最近話題になるのは、高齢者虐待です。75歳以上のおばあちゃんが息子に殴られるというのが一番多いパターンです。僕が思う一つの要因は、男性が子育てをしていない、もっと言うと、おしめを替えていないということだと思います。

父親の育児は5人を幸せにする

男性が育児をできない社会は、男性も女性も、子どもも追い詰めます。子ども、母親、父親、企業、社会、僕は男性が育児をすることで、この5人が幸せになると思います。子どもは、母親の単一の価値観だけでなく色々な価値観が身に付く。母親は、孤独という育児不安から解放される。父親は、子どもの育ちを見ながら、単一の価値観によらない生き方を確認することができる。企業は効率化と職員のメンタルヘルスを確保できる。そして少子化に歯止めがかかり、豊かな社会を実現することができるんです。

男性にはワークライフバランスが必要

ワークライフバランス、仕事と家庭の調和のことです

が、二者択一ということじゃないし、人により様々。両方うまくとるということでもない。主体的ということが大事なんです。仕事が忙しいのも構わない。要は自分で選んでいるかどうかです。自分で選んでいないのに、仕事をさせられているとか、育児をやっているというのは、ワークライフバランスとは違います。

日本の男性の理想で一番多いのは、仕事と家事・育児を同等に重視したい人なのに、実際は、仕事優先になっている。“パパがんばって～”と奥さん、家族は一生懸命支えているのに、パパは嫌々仕事している。一体誰が幸せなのか。ここに大きな問題があると思います。

家族、社会を救えるのは父親である

この社会で、一番生きる質の低い男性の生活を変えていくと、みんなが豊かになるんです。社会全体の文化を変えるし、家族の危機を救えるのは父親しかないと思います。

ワークライフバランス=自分の人生を考えること

ワークライフバランスは、人生を考えること。今までの生き方が参考にならないし、モデルがない。望んだ生き方を、僕たちがしなくちゃいけないんです。

そのとき足かせとなるのが、“男の子だから”“女の子だから”“親やから”“教師やから”そういう分類も大事だけど、それだけじゃ生きていけない。そればかりが強い社会であれば、僕は男性保育士になれなかったし、育児休暇も取れなかった。抵抗、妨害もあったけど僕は“小崎らしく生きたい”と思ったし、“それが小崎家やで”ということ家族の中で共有してきました。

自分の人生と家族をマネジメントする。これは、とてもしんどいですよ。でも、ワークライフバランスとは、人生の主人公に男性も女性も家族も子どもも含めみんながなっていく、豊かに生きていくための理念と実践の総称です。

皆さんにとってよりよい人生を、子どもとともに歩んでいただきたいと思います。

参加者の声

「今日の話、家へ帰って夫に伝えたい」
「まもなく父親になります。子育て楽しみたいです」
「2歳の子とも自分の妻のことをもっと考えていきたい」
「自分自身と家族が生き生きと生きていくための選択は、自分自身でするしかないと思改めた」
「男が変わらないといけないですね」
「元気になるお話でした」

第2次たじみ男女共同参画プランの進捗状況を報告します。

多治見市では第2次男女共同参画プラン（平成20年度～29年度）を市・市民・事業者・保育又は教育に携わる人の連携によって推進しています。ここでは、平成21年度までの進捗状況と、これに関し3月25日に男女共同参画推進審議会から出された提言内容をお伝えします。

第2次男女共同参画プランの目標と項目（主なもの）

基本目標1 人権を尊重した男女共同参画

広報・啓発、DV対策、女性相談の充実

基本目標2 多様な場での男女共同参画

子どもの男女平等意識の醸成、ワーク・ライフ・バランス対策（雇用・就労）

基本目標3 政策・方針決定過程における男女共同参画

市政運営への女性登用の促進

基本目標4 家庭、地域社会における男女共同参画

ワーク・ライフ・バランス対策（家庭・子育て・介護）、地域・防災での男女共同参画

平成21年度における目標達成度（主なもの）

	平成18～19年度 （基準値）	平成29年度 目標値	平成21年度	（参考） 平成21年度全国平均
市の審議会等 [※] における女性委員の割合	25.6%	30%	23.7%	25.1%
女性委員がいない市の審議会等の数	9	0	10	—
自治会長における女性の割合	2.8%	6%	2.6%	3.8%

※市の審議会等とは、法令、条例により市に設置されている委員会・審議会等を指し、多治見市では教育委員会など40の組織があります。

男女共同参画推進審議会からの提言

継続的に男女共同参画の情報提供に努めること

本市の男女共同参画条例等の認知度及び男女共同参画行政の満足度などにおいて、特に若い年代や子育て世代に低い結果となっています。様々な媒体を活用し、継続的に情報提供に努めていただきたいと思います。また、満足度が低い結果を分析し、有効な手法を検討していただきたいと思います。

教材などを男女平等教育の視点でチェックすること

子どもたちが成長する過程として幼児教育や学校教育の場は大変重要です。教育を通して男女平等の意識を育んでいくこととなるため、補助教材や参考資料などは男女平等教育の視点で絶えずチェックされることを願います。

DV防止の啓発広報と継続的に被害者支援を行うこと

DV（ドメスティックバイオレンス）防止に向け広く啓発していただきたいと思います。また、デートDVも増加していることから、若年層を対象とした啓発活動も積極的に実施していただきたいと思います。DV被害者への支援についても、関係機関と連携しつつ継続して取り組んでいただきたいと思います。

政策・方針決定過程への女性の参画を進めること

政策・方針決定過程への女性の参画を促進し、多様な

意見を取り入れることは重要です。しかし本市では、まだ女性が一人も入っていない委員会や女性の参画が少ない委員会があるので、今後も女性の人材育成やエンパワメント支援を続け、政策・方針決定過程への女性の参画を進めていただくようお願いいたします。

企業の意識付けを促す施策を継続して行うこと

入札参加資格者登録の際、子育て支援対応を入札参加の加点評価項目に加えるなど、企業も子育て支援を担うべき者としての意識付けを促す施策を今後とも続けていただきたいと思います。昨年度実施された企業アンケートにより企業の状況を分析し、施策に活かしていただきたいと思います。

生活困難層への対応施策を進めること

昨今の経済社会では生活困難層が増加している状況です。女性は相対的に低収入であったり、再就職しにくかったりという面があります。また、男性も含め経済的に不安定である非正規雇用者が増加しています。就業促進や経済的自立のための制度、労働環境の整備など、関係機関と連携して進めていただきたいと思います。



平成22年版男女共同参画白書が刊行されました。

これを見れば国全体の男女共同参画の状況と施策動向がわかる！

男女共同参画白書は、国全体の男女共同参画社会の形成状況と、政府の施策について示すもので、毎年度政府から公表されています。政策、就業、教育、仕事と生活の調和、女性に対する暴力等各分野を対象にしています。今回は、就業分野における男女共同参画をクローズアップして、国全体の状況と施策動向を見てみたいと思います。

平成22年版男女共同参画白書

就業分野における男女共同参画

現状

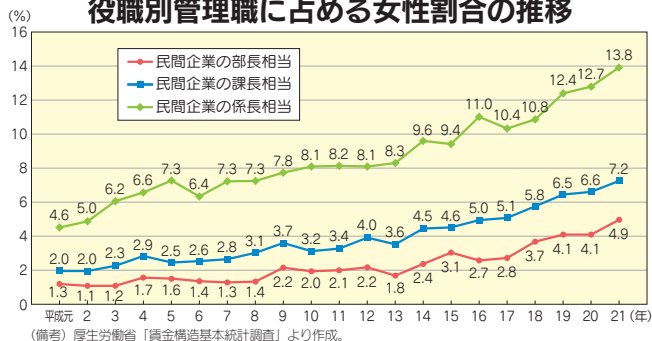
●女性の労働力人口が増加

前年より9万人増えて2,771万人になりました。

●女性の勤続年数は長期化傾向にあるが、管理職に占める女性割合は依然として低い

女性の平均勤続年数は8.6年となって長期化傾向ですが、管理職に占める女性の割合は10.5%と依然として低い状況です。

役職別管理職に占める女性割合の推移



●給与所得は男女で大きな差

女性は、300万以下の所得者において66.4%を占

めています。700万超の所得者においては、3.3%に過ぎません。

国の平成22年度施策動向

●均等機会の確保

企業のポジティブアクション（男女間の格差解消のための積極的取組み）の促進

●女性の能力発揮に向けて

マザーズハローワーク^(※)での就職支援。事業主に対する支援（キャリア形成促進助成金の支給）

●多様な就業ニーズを踏まえた雇用環境の整備

パートタイム労働者の雇用環境改善の充実（事業主への指導・助成金の支給）、短時間正社員制度導入促進（事業主への助成金支給など）、テレワークの促進

●起業支援

女性を対象とした起業支援セミナー、融資制度の実施

※マザーズハローワーク…子育てしながら求職する女性に対し、再就職支援を行うハローワーク

白書は市役所人権推進室でも閲覧できます。

詳しくは内閣府男女共同参画局のサイトをご覧ください。

<http://www.gender.go.jp>

INFORMATION

若年層を対象とした交際相手からの暴力の予防啓発教材が発行されました。

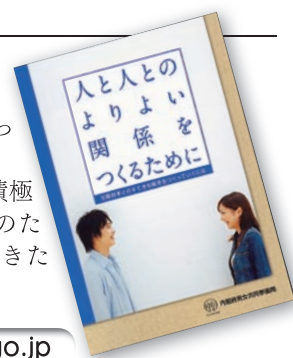
内閣府の調査によると、10歳代、20歳代のときの交際相手から暴力被害を受けたことがあった人は、女性13.6%、男性4.3%でした。

この教材は、若年層に対して交際相手や配偶者からの暴力の問題について考える機会を積極的に提供することが、男女間における暴力の防止に有用であると考え、若年層への教育啓発のために作成されました。高等学校等若年層に対し啓発・教育機会のある方にぜひご活用いただきたい教材です。

教材の貸し出しは市役所人権推進室でも行っています。

詳しくは内閣府男女共同参画局のサイトを参考にしてください。

<http://www.gender.go.jp>



●この情報紙へのご意見やお問い合わせは下記までお寄せください。

■多治見市役所企画部企画課人権推進室

〒507-8703 多治見市日ノ出町2-15

TEL 22-1111 (内線1462)

FAX 25-7233

E-mail: jinken@city.tajimi.gifu.jp

作成費用 49,770円 作成部数 1,500部



環境にやさしい植物油インキを使用しています

男女共同参画サロン ほっと

みなさんの情報交換や交流の場としてオープンしています。お気軽にご利用ください。

悩み事相談

一人で悩んでいませんか？親子、夫婦関係、職場のこと、セクハラ、DVなど、様々な悩みを女性アドバイザーと一緒に考えます。

◎開設日 毎月第3金曜日 午後1時～午後6時

◎場所 まなびパークたじみ 1階会議室

※午後3時から女性弁護士による無料法律相談もあります。(要事前予約)
男女共同参画に関する書籍・DVD・資料も取り揃えています。

【お問い合わせ】多治見市企画課人権推進室 22-1111 (内線1462)